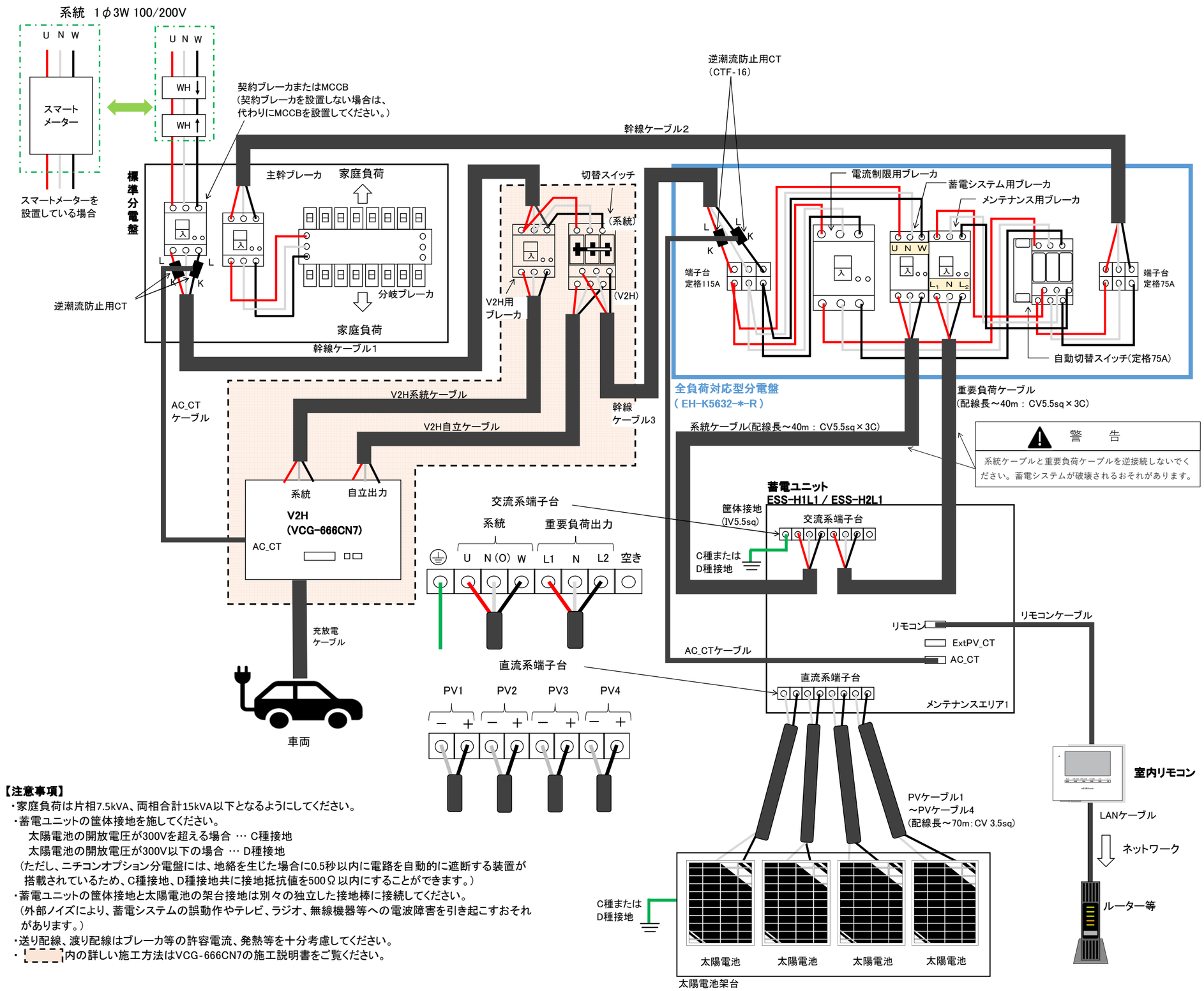
【ESS-H1L1/H2L1】 標準配線+V2H(VCG666CN7)



【注意事項】

・家庭負荷は片相7.5kVA、両相合計15kVA以下となるようにしてください。
・蓄電ユニットの筐体接地を施してください。
　太陽電池の開放電圧が300Vを超える場合 … C種接地
　太陽電池の開放電圧が300V以下の場合 … D種接地
（ただし、ニチコンオプション分電盤には、地絡を生じた場合に0.5秒以内に電路を自動的に遮断する装置が搭載されているため、C種接地、D種接地共に接地抵抗値を500Ω以内にすることができます。）
・蓄電ユニットの筐体接地と太陽電池の架台接地は別々の独立した接地棒に接続してください。
（外部ノイズにより、蓄電システムの誤動作やテレビ、ラジオ、無線機器等への電波障害を引き起こすおそれがあります。）
・送り配線、渡り配線はブレーカ等の許容電流、発熱等を十分考慮してください。
・ [　　] 内の詳しい施工方法はVCG-666CN7の施工説明書をご覧ください。